

第30号
平成23年11月4日
発行
「市民活動情報紙
なると」編集委員会

市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア
連絡協議会
☎685-7170
鳴門市市民活動
支援センター
☎685-7170



大津基幹農道沿いのコスモス



大津農協前接待所

鳴門市内一円で、10月1日～11月3日までコスモス祭りが開催されました。鳴門市花街道地域づくりネットワークの皆さんが大切に育てたコスモスは、見事に咲き誇っていました。期間中、12ヶ所で接待所が開設され、10月15日に開設された大津農協前接待所では、基幹農道沿いに植えられたコスモスの見物客や地域の人たちが大勢訪れていました。



俘虜が残した【第九】は鳴門の宝

NPO法人鳴門第九を歌う会
理事 浅野 里江

1918年(大正7年)6月1日、新緑鮮やかな板東俘虜収容所の一角に、ベートーヴェンの交響曲第九番の「歓喜の歌」が響き渡りました。日本で初めての演奏という歴史的な1ページを刻んだのが、第1次世界大戦の捕虜として収容されたドイツ兵でした。

何故、敗者である捕虜たちが、自由に美しい音楽を奏でることが出来たのでしょうか。それは、当時の収容所長であった会津出身の松江豊寿大佐の「捕虜達も祖国のために戦ったのだから」という温かい人道的な対応で、捕虜の生活にかなりの自由が許されていたからでした。ドイツ人の持つ優れた特性が、ハム・ソーセイジ加工・印刷・建築・音楽等のあらゆる面でその力を発揮し、地元民との温かい交流とあいまって見事に花開いたのでした。

それから時を経ること60有余年。昭和57年に鳴門市に新しい文化の殿堂鳴門市文化会館が建てられ、そのこけら落としの演奏として採用されたのが、「第九」でした。

ドイツ兵が残してくれた「第九日本初演の地」という素晴らしい鳴門市への贈り物が、徳島交響楽団のオーケストラ、377名の鳴門市民合唱団、鳴門市出身の4名のソリストと指揮者によって満席の観客の前で初披露という形となって鳴門の地で再現されました

当時勤務していた瀬戸中学校の生徒20名と練習に取り組み、初舞台に立ったときのあの奮えるような感動は今も鮮やかに甦ります。

あれから30年、本年は第30回演奏会が、鳴門第九を歌う会会員と全日本第九連合会のメンバー合わせて600名余の大舞台での演奏となりました。

今年の観客席は、立ち見も含めて満席となり、終了後の「ブラボー！」の掛け声と共に起こった嵐のような拍手に、溢れる涙を拭くことも忘れて立ちつくしていました。

鳴門市内外の多くの皆様に支えられ、これからも「鳴門第九」が鳴門市の宝、徳島県の誇りとして歌い継がれることを祈っています。

「がんばれ! ママーズ」

代表 波馬 薫

「がんばれ! ママーズ」は、子育てをしながら仕事を持ち、かつ家事をもこなすママさんグループです。保育園・幼稚園・小学校・施設や各種イベント等で出張コンサートをさせていただいております。

「がんばれ! ママーズ」は、結成16年。結成当時は、まだまだ世間的にボランティア(活動)が浸透しておらず「ボランティアで出張コンサートをしております。いかがですか?」と声をかけても、不審そうなお返事が返ってくるという事も多々ございました。ですが、地道に活動する事により、毎年恒例で呼んでくださる園や催し、季節のイベント時には何ヶ月も前から予約が入る様になりました。コンサート先では、たくさんの笑顔に出会いました。

時代の流れはとても早く、その時々を受け入れ喜んでいただける曲(内容)を提供するのは、とても大変な作業なのですが、子供達やお年寄りの方々の笑顔を見ると、その疲れもふっ飛びます。

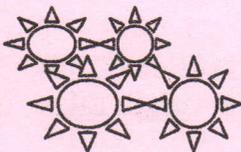


雛の先まつりに出演

当時は幼かった、メンバーの子供達もそれぞれ成長し、社会人となって立派に働いている子や、母親の「がんばれ! ママーズ」の影響を受けたのか、音楽への道や芸能人への道を歩んでいる子供達もいます。まだ、2~3歳だった子供をつれて練習に集まっていた事もなつかしい思い出です。

当初は、この活動が16年間も続くとは、夢にも思っていませんでした。「40歳過ぎててもやっているかな??」なんて、笑っていたメンバーですが、50歳近くなった現在も、歌って踊ってますますパワーアップ(少々、息は切れる様になってまいりましたが笑)しております。まだまだ子供達には負けられません!

♪ 届けます!! 楽しいコンサート ♪



環づくり / 限界集落から考える地域資源再生プログラム

NPO法人 環境とくしまネットワーク 理事長 島田 公

私どもの環境保全活動は、昨年度(独)環境再生保全機構地球環境基金・発展助成活動により四国各地域で頑張る個人・団体等25組織が連携する四国では初めての環境活動ネットワーク「環四国ネットワーク・四国は一つ!」を設立し、今年度はもっと四国地域の様々な現状を把握し地域環境保全と地域活性化再生するという展開を図っています。

その背景現状・問題点として、四国の農山村漁村は今、人口・戸数の激減と超高齢化の進行で自治機能が急速に低下し、地域集落は少し前の社会的共同生活の維持が困難な状態に追い込まれています。これに伴い地域で維持してきた環境保全活動も継続継承されない状況が四国各地に同様な課題として浮き彫りにされてきたということになります。具体的には、耕作放棄地・廃屋・空き家問題・超高齢化に伴う地域環境保全・景観文化の資源消滅・林地荒廃による竹被害の増加・

環境意識の格差等、これに対し環境保全体や市民グループが各地域ごとに活動しているが、ごく限られた地域でそれぞれが活動し、相互交流がなく、情報や知見が共有されていないため、活動の発展性や団体の運営能力が乏しく、効果的な環境保全活動が行われているとはいえない状況を開拓するため、今年度は四国内対象地区8箇所での現状調査と関係者へのヒアリング実施、また、地域環境NPO・地域住民+行政+企業関係等との車座方式で意見交換とワークショップでの地域エリアミーティングを開催。そして、この総合環境再生シンポジウムとして来年二月高松市において、「環づくり四国 / 限界集落から考える地域資源再生フォーラム2011」を企画、この活動では、次年度には、活動のモデル化事業実施によって全国に先駆けての環境地域資源再生プログラムを展開実現を目指しています。

「住みよい板東地区をめざして」

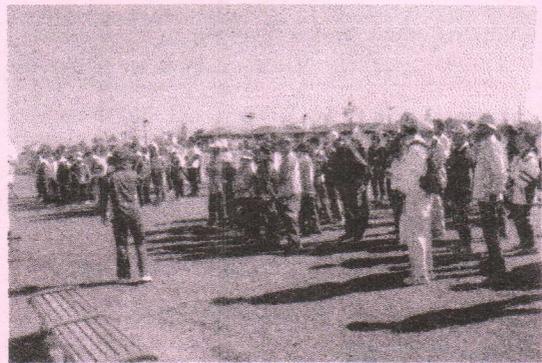
板東地区自治振興会 会長 前野 憲治

私たちの板東地区自治振興会は18地区の自治振興会からなる連合組織であり、会員は2,655世帯、6,368人の大世帯です。各地域の特性が異なるために自治会間の横の繋がりが重要と考え、自治会長会定例会を毎月開催しています。これにより各自治会や専門部会の交流や情報交換が活発になっており、今後はその情報等を地域の方々にも共有していただき、各自治会の活性化にもつなげていきたいと思っています。

板東地区では地域おこしに向けて、さまざまな活動が自主的に行われています。特に住民間のコミュニケーションと親睦を図るため、各専門部の会員が中心になり、老人会、婦人会、地区社協の会員と連携をとり事業に取り組んでいます。

今回は文化部、体育部、福祉部における主な活動を紹介します。

- 1) 文化部では「ピースコンサート in 板東」を『「第九」フェスティバル in 板東』と名称変更し、「第九」日本初演の地・板東のドイツ館において、8月21日(日)に地元の幼、小、中学生や地域の合唱グループ等の出演により盛大にコンサートを開催しました。地域住民が一体となって、この板東の土地が持つ歴史と文化を守り後世に伝えようとしています。
- 2) 体育部会では、10月10日(体育の日)に、板東大鳥居横専用グラウンドにおいて、第7回グラウンドゴルフ大会を開催しました。会員87名の参加があり、最高齢である川崎地区の高橋子榮さんがみごと優勝されました。次世代との交流や親睦並びに健康の増進に寄与しています。



交流ウォークに参加した皆さん

また、今年度中には、堀江地区自治振興会との共催で、「大麻地区グラウンドゴルフ大会」の開催を検討しています。現在関係者が協議を進めており、地域間交流にも務めていきたいと思っています。

- 3) 福祉部会では、大麻地区社協との共催事業で、10月19日に、大麻町内にある福祉施設「草の実学園」「板東の丘」「しあわせの里」「カノン」等との交流ウォークを実施しました。福祉施設利用者やボランティアと地域住民の交流が深まり、ウォークやビンゴゲームなどで楽しい一日を過ごす事ができました。

今後も、町内の福祉施設等と連携を深め、援助・支援活動を推進し、障がい者もともに社会参加ができる優しいまちづくりに努めたいと思っています。

鳴門市コミュニティビジネス講演会が開催されました



コミュニティビジネス講演会会場

鳴門市主催の「コミュニティビジネス講演会」が9月17日、鳴門地域地場産業振興センターで開催されました。NPO法人JCIテレワーカーズネットワーク理事長 猪子和幸氏から「夢は、創るもの 育てるもの 叶えるもの ～はじめてみませんか、地域を豊かにするコミュニティビジネスを～」と題した講演があり、猪子氏は「チャレンジド(社会的弱者)の社会的・経済的自立の実現を目指して事業(活動)を行ってきた。事業は『誇りを持って取り組める仕事の創出。確かな仕事を実現する知恵。逆転・反転の発想で、生き方の意識改革』を基本理念としている。これまで頼まれた仕事は、チャレンジドができない事はないと必ずひき受けてきた。

これからも新しい公共の担い手としての自覚を持ち、社会貢献と事業の自立・継続の双方を実現していきたい。」と、これまでの経験談とともにさらなる夢を話されました。

助成金情報

◎「JTNPO助成事業」

～地域コミュニティの再生と活性化にむけて～

- ◇応募資格 法人格
 - ・非営利法人であること
 - ・2011年9月30日時点で、法人として1年以上の活動実績を有すること
 - ・法人の設立目的や活動内容が、政治、宗教、思想などに偏っていないこと
- ◇対象事業 【通常助成】
地域社会の核となって実施する地域コミュニティの再生と活性化につながる事業
- ◇事業実施期間
2012年4月1日～2013年3月31日
- ◇助成金額 最大150万円
- ◇締切り日 平成23年11月20日
(当日消印有効)
- ◇問い合わせ先
日本たばこ産業(株) CSR推進部 社会貢献室
☎03-5572-4290

◎「きれいな川と暮らそう」基金

- ◇目的
きれいな川、親しめる川と共に暮らすため、川や水辺で活動を行なっている学校や市民団体に対し、活動資金を助成
- ◇支援対象活動
水資源確保・河川美化清掃・水質保全などの水環境保全活動
- ◇助成対象者
学校および市民団体
(NPO、NGO、サークルなど)
- ◇助成金 最大100万円
- ◇締切り日 平成23年11月30日
(当日消印有効)
- ◇問い合わせ先
公益社団法人 日本河川協会
「きれいな川と暮らそう」基金事務局
☎03-3238-9771



◎ 環境NPO助成

- ◇応募資格
 - ・NPO法人
 - ・3年以上の実践活動歴を有する国内の任意団体(活動歴が3年未満の任意団体についても、優れた提案については審査委員会の判断で助成対象とする)
- ◇助成対象
 - a. 環境と経済との調和に資する活動
 - b. 環境と科学技術の調和に資する活動
 - a. b. いずれかの目的を達成するための具体的取り組み・活動に対して助成する
- ◇助成金額 150万円(上限)
- ◇締切り日 平成24年1月20日
(当日消印有効)
- ◇問い合わせ先
公益財団法人 日立環境財団
☎03-3257-0851

ボランティア募集

新池川

EMダンゴ投入・清掃奉仕

- ◇日時 11月27日(日)
10:00～
- ◇場所 新池川 警察前の池
- ◇問い合わせ先
新池川をきれいにする会
☎090-3181-1402(乾)

鳴門市市民活動支援センター

- 鳴門市撫養町南浜字東浜30-9
老人福祉センター1階
- 開館日 月～金曜日 13:00～18:00
- 休館日 土・日・祝日・年末年始
- ☎088-685-7170
(鳴門市社会福祉協議会内)
- FAX088-686-4059
- naruto.npo.shien@gmail.com